

# 2 WPW症候群(B型)

## 疾患概念

WPW症候群は、正常な房室結節以外に心房と心室間に副伝導路が存在する症候群である。副伝導路において心房から心室への伝導時にデルタ波が出現し、洞調律時にはPQ間隔が短縮することから、早期興奮症候群とも呼ばれている。副伝導路の、心房から心室への伝導を順伝導、心室から心房への伝導を逆伝導(図4.2.1)といい、順伝導があるときに、洞調律時にデルタ波が出現する。

WPW症候群の心電図分類には簡便なRosenbaumの分類がある。A型とB型に分類され、副伝導路の存在部位からA型は左心系に、B型は右心系に副伝導路を有するものとされる。

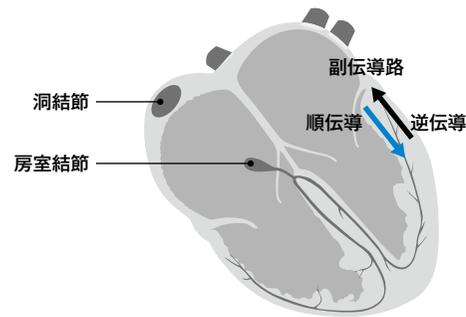
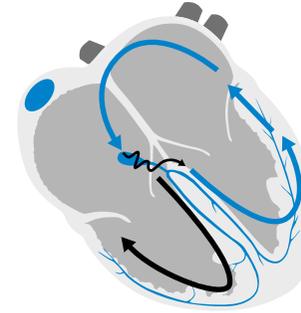


図4.2.1 副伝導路の順伝導と逆伝導  
洞調律時には副伝導路は順伝導し、デルタ波を形成する。逆伝導のみの副伝導路は心電図にデルタ波を認めない。

## 合併不整脈

WPW症候群は、発作性上室頻拍の原因のひとつである房室回帰性頻拍と心房細動を合併することがある。房室回帰性頻拍には、副伝導路を逆伝導する正方向性房室回帰性頻拍と、順伝導する逆方向性房室回帰性頻拍がある(図4.2.2)。心房細動を合併するWPW症候群は一見、心室頻拍様の心電図(図4.2.3-A)を示すため、偽性心室頻拍(pseudo ventricular tachycardia)とも呼ばれている。心房細動の無秩序な心房興奮が、副伝導路から心室に伝導することによる(図4.2.3-B)。WPW症候群に合併した心房細動は、とき

A 正方向性房室回帰性頻拍



B 逆方向性房室回帰性頻拍

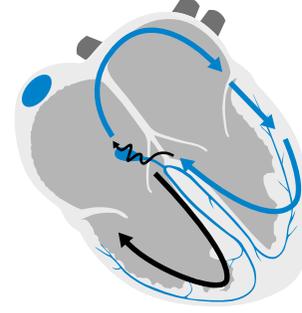
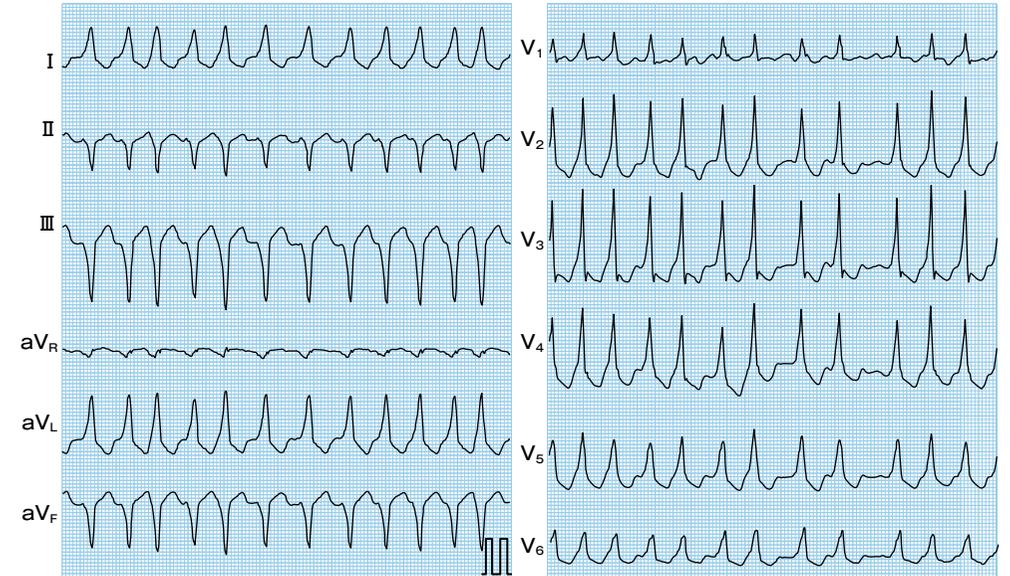


図4.2.2 房室回帰性頻拍

正方向性房室回帰性頻拍(orthodromic atrioventricular tachycardia)は房室結節から心室の興奮が始まることからnarrow QRS tachycardiaとなり、逆方向性房室回帰性頻拍(antidromic atrioventricular tachycardia)はKent束から心室の興奮が始まることからwide QRS tachycardiaとなる。

A 12誘導心電図



B 伝導の模式図



図4.2.3 偽性心室頻拍(pseudo ventricular tachycardia)

心房細動の興奮が副伝導路を介して心室に伝導し、心室興奮が高頻度に起こる。